



榎の木：写真提供 平塚市

“気になる木”

## ふるさと探訪

# 新々の記

## 四季の木

**榎**：春に五弁の大輪の花を開く榎は、花色・花型ともに多様であり、その果実を含む種子からは、「精油」が採取されるのである。

子どもころ、退屈ぴきならぬ急用や余所行きの時などに、滅多に付けたことのない「精油」を髪に擦り付けて外出していた母を思い起こしている。

毎日がさいほう・しごと・すいじ・せんたく・そうじで正に文字通りの多忙な母が、鬢付け油(頭の左右側面の耳ぎわの髪の毛に付ける油。日本髪でのおくれ毛を止め、髪型を固める油で、菜種油と晒木蠟と香料を混ぜたもの)の代用に使った貴重な油だった。

そういえば、飴玉のことで兄妹げんかとなり、家中を走り回った際に箆箭の横にあった鏡台を引つ繰り返して精油のビンを割り、例の灸やいと(こ)をされたことが懐かし(い)っ。幸いにして鏡は無事だったので、少し弱めのやいとだったが…。

**榎**：春に淡黄色の細かな花が咲き、秋には球型で橙色の食用の果実も熟すが、初夏に芽ざして盛んに大きくなることから「夏の木」という義意味を取ったともいっ。

そういえば、榎(滑草とも言う)はほど木やヒン栽培もされ、榎そのものは建材や器具材にも利用されるし、辞典によればかつて江戸時代には一里塚(五街道をはじめとし、諸道の里約三・九三キロメートル)に設けられた盛り土などの場所に植えられたといっ。

因みに、千葉県八街市の榎戸は、牧場の柵に榎を使った戸口から、榎が群生していた場所なのか定かではないが、榎に何らかの関係があるらしい(い)っ。

**楸**：赤芽柏の古名とされ、比佐岐・久木とも書き、ヒササゲ・ヨウソク・ミネバリ等と二つの植物に特定できないといっ。

葉と皮は薬用となり、またアズサの別名もあり、梓弓や版木にも用いられた灯台草科の落葉高木である。

そういえば、宮崎県日向産の榎材は榎盤の最上といわれるが、榎の榎盤も結構なお品とされている。字典によると、榎の夏が榎の買に通じて榎もヒサギと読むといっから、ややこしさが尋ねることもあるの(で)用心要心……。

**柀**：トウラギ、疼木であり、晩秋

から葉腋(葉のつけ根)に白い小花を密生する。葉と実はクリスマスの飾りに用いられ、節分の鬼よけのまじないにもされたともいっ。

そういえば、一九九九年(平成十二)四月から十月までのNHK連続テレビ小説「すずらん」のヒロイン萌(な)の子役は柀瑠美さんであったが、ちょうど珍しい名字だ(と)頭の隅に残っていたので確認したところである。

疼木の疼は疼(痛)く、疼痛を連想し、既報(二〇〇三年(平成十五)十二月)の今は亡き心友の遺訓が頭を過るのである。

「疼痛とは手足がかじかみ、ずきんずきんと疼く痛みで、表面だけでは分からないだろ(う)。だから、ぬるま湯からゆつくりと暖めながら疼きをなくすようにしないと……。」

これが「心の疼痛」になると大変(で)お互い(に)分かり合(う)には文学(学)特(特)に小説(説)を多読(よ)すべきだ(ぞ)。「……。」とともあれ、木偏(こへん)の春夏秋冬(から)魚偏(ういへん)や他の偏(へん)にもひろげたいと思(う)う(が)……さて。

(元)郷土史編集専門員  
尾池 隆 男

□発行／東川町役場 □編集／税務住民課 Tel.82-2111  
□表紙写真／松野智久 □印刷／(株)須田製版

URL <http://town.higashikawa.nokkaido.jp/>

No.609 JULY 2004

人口 / 7,624人(前月比5人) 男 / 3,642人(前月比0人) 女 / 3,982人(前月比5人)  
世帯数 / 2,930戸(前月比2戸) 出生 / 7人、死亡 / 6人、転入 / 26人、転出 / 23人 【5月31日現在】  
住民登録の手続き上、人口増減と出生・死亡・転入・転出の増減は一致しないことがあります。



本誌の印刷には、大豆インクを使用しています。また用紙には再生紙(100%)を使用しています。